

2014/9/10

## 柏の景気情報（平成26年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成26年8月分）

○ 調査期間 : 平成26年8月21日 ~ 8月26日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	84	51.9%
建設	44	25	54.5%
製造	33	17	48.5%
卸・小売	43	27	65.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成26年8月の調査結果のポイント】

### ◀業況DIは悪化。人手不足、コスト増の影響により依然厳しい状況▶

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が5.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.7(同▲18.7)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△4.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲20.0(同±0.0)であり、▲20.0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲66.6(同▲61.5)である。

【建設業】からは、「上半期、駆け込み需要の反動で受注が減り、受注単価が一部で落ちているとの話を聞く。以前から言われているが、工期の平準化がやはり求められる(石工れんがタイルブロック工事業)」、「今月は工期の制約が多い現場が多く、作業員の配置にロスが出てしまい、経費がかさんでしまった。相変わらず利益がきちんと出る現場はほとんど無い(塗装工事業)」、「4月以降、住宅(新築)は減少気味。リフォームは好調(その他の職別工事業)」、「石油製品である材料の値上がりが続いている。不景気による廃業、転職による人手不足、7・8月の高気温、天候不順による工事の遅れがあったが、9月決算に向け工事が進み、人手不足に拍車をかけている。人手不足のため、工賃、手間代は値上がりしているが、ゼネコンからの受注単価は下がっており、厳しい状況となっている(その他の職別工事業)」、「本体業者間の競争が激しく、新築物件の確保が難しくなっている(管工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「お盆前後に部品加工や購入品の発注が集中し、部品の納期遅れが通常より多く見られた(その他の機械・同部品製造業)」、「荷の動きが良くない(紙製容器製造業)」、「今期の7・8月の売上高は上昇であったが、先行安定とは言えない。再度の消費税増税になると、仕事は益々淘汰され厳しい状況となる(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「消費税増税影響による売上ダウン傾向は改善し、婦人衣料品は前年水準まで回復。時計・宝飾品の高額品及び化粧品といった増税特需の恩恵を受け、反動減のあった商材もトレンド上昇基調で前年実績を確保(百貨店)」、「ここに来て売上減少が目につき出した。業界的に弱気モード。生き残りに必死。新規開拓の営業が廻ってくるのは、最近では稀な位である(婦人・子供服小売業)」、「例年の8月に比べて更に状況は厳しいです。お客様の購買意欲が全く感じられない。景気の低迷は続いていると思います(菓子・パン小売業)」、「今月は、野菜果実ともに相場はまちまちの取引です。関東以外の天候不順により品薄感、入荷の増加、減少と安値、高値の安定取引が続かない状況にあります。今後の秋商材に向けて産地情報をしっかり取り次ぎ、需要供給を図りたいと思います(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「高額物件の引き合いが増えてきました。購入意欲も強いです。法人の需要も増加しています(不動産管理業)」、「居住用賃貸物件も比較的すぐに埋まるので、景気は悪くないと思う(不動産賃貸業)」、「昨今、人口減少と空き家増加の問題が取沙汰されています。今後の賃貸マーケットにも長期的に関連すると考えていますので注視しています(不動産賃貸・管理業)」、「設備投資はそこそこ。ただ、不景気波はすぐそこにあると予測するので、オンリーワンの商品開発が今後の生き残りのカギと考えている。特定のセクションでの人材不足は深刻であるが、製造職は人余り状態(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎人手不足

各業種から、「パートさんの退職が増えてきている。各社とも人手不足から時給を見直し、アップしているために、当社から他社へ移るパートさんが出てきている(その他の各種商品小売業)」、「人手不足は深刻です。募集しても応募はゼロで、業務に支障が出ます(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎原材料費高騰

各業種から、「材料、諸経費も値上がり続きで、利益は薄い。見積り価格より大幅な値下げを要求されている(電気工事業)」、「製品受注は月変動なく推移しているが、工事受注は月ごとで波がある。原料も値上がりしており、受注単価に転嫁出来ないと厳しい(特殊産業用機械)などのコメントが寄せられた。

#### ◎先行き不安

各業種から、「受注量の回復が見られない中、燃料費、材料費の値上がりが続く、先行きは厳しい状況である(一般産業用機械・装置製造業)」、「8月が悪いのは予想していたとはいえ、持ち直しが見えない。消費税増税後の引き締めが未だ続いている(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲11.2	△4.5	±0.0	▲32.1	▲6.6
4月	▲15.4	▲15.3	△11.1	▲42.8	△8.3
5月	▲23.5	▲20.8	▲11.7	▲46.4	±0.0
6月	▲27.0	▲4.0	▲31.2	▲57.1	▲6.2
7月	▲22.2	△4.1	▲18.7	▲61.5	±0.0
8月	▲27.3	±0.0	▲11.7	▲66.6	▲20.0
見通し	▲19.0	±0.0	▲17.6	▲48.1	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が5.1ポイント拡大した。

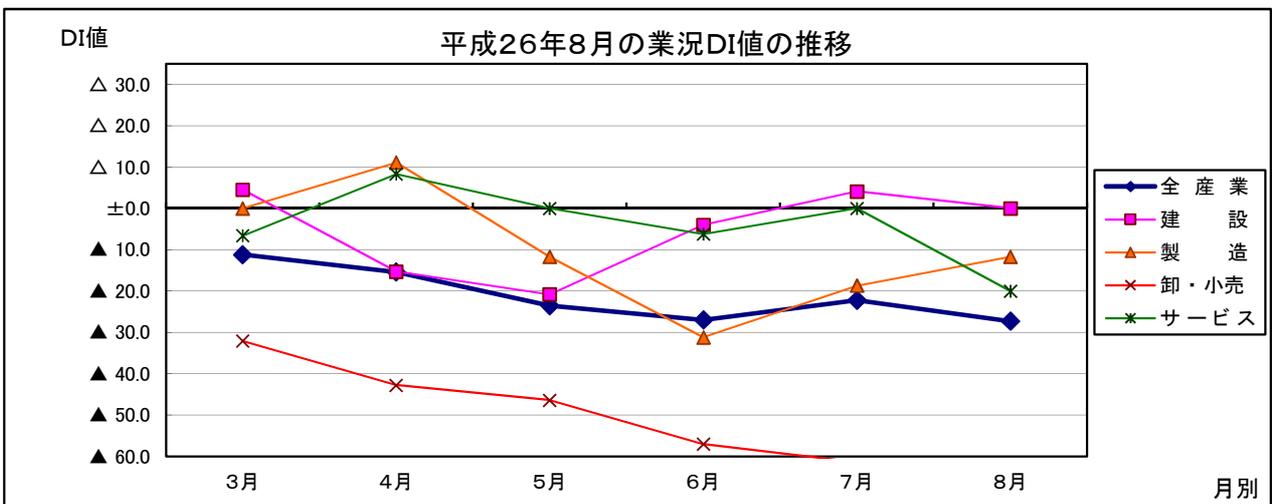
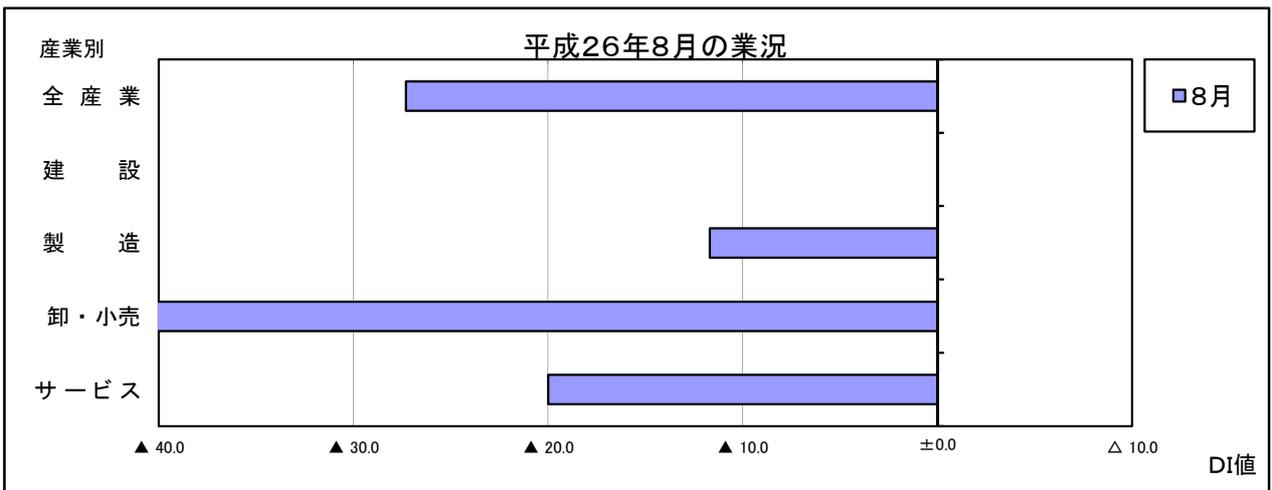
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.7(同▲18.7)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△4.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲20.0(同±0.0)であり、▲20.0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲66.6(同▲61.5)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.0(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲6.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲6.2)、卸小売業▲48.1(同▲46.1)である。

平成26年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲11.2	▲15.4	▲23.5	▲27.0	▲22.2	▲27.3	▲19.0(▲14.8)
建設	△4.5	▲15.3	▲20.8	▲4.0	△4.1	±0.0	±0.0(△8.3)
製造	±0.0	△11.1	▲11.7	▲31.2	▲18.7	▲11.7	▲17.6(▲6.2)
卸・小売	▲32.1	▲42.8	▲46.4	▲57.1	▲61.5	▲66.6	▲48.1(▲46.1)
サービス	▲6.6	△8.3	±0.0	▲6.2	±0.0	▲20.0	±0.0(▲6.6)



【平成26年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.6(前月水準▲17.2)となり、マイナス幅が5.4ポイント拡大した。

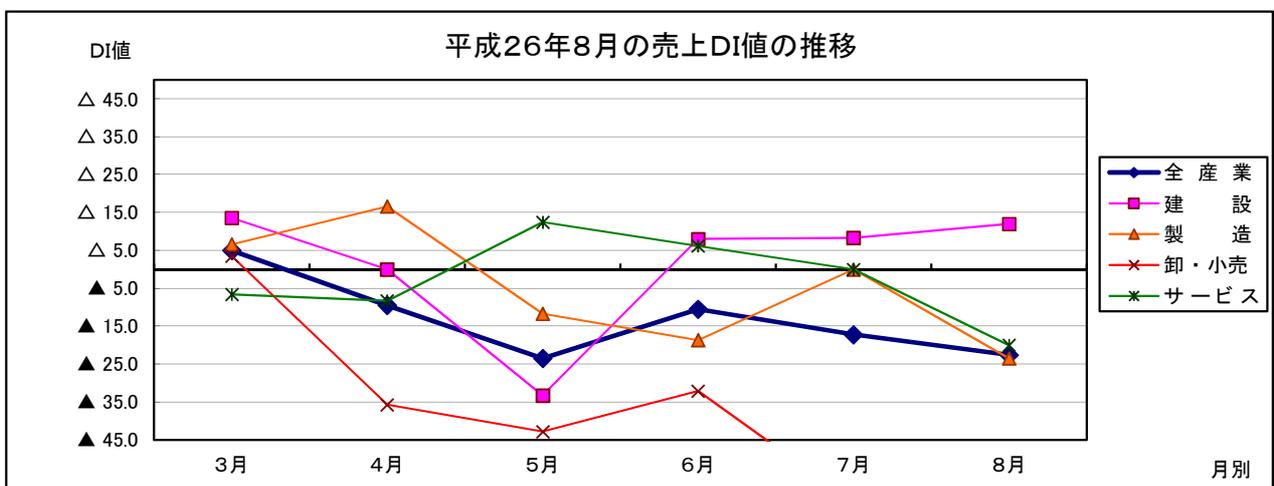
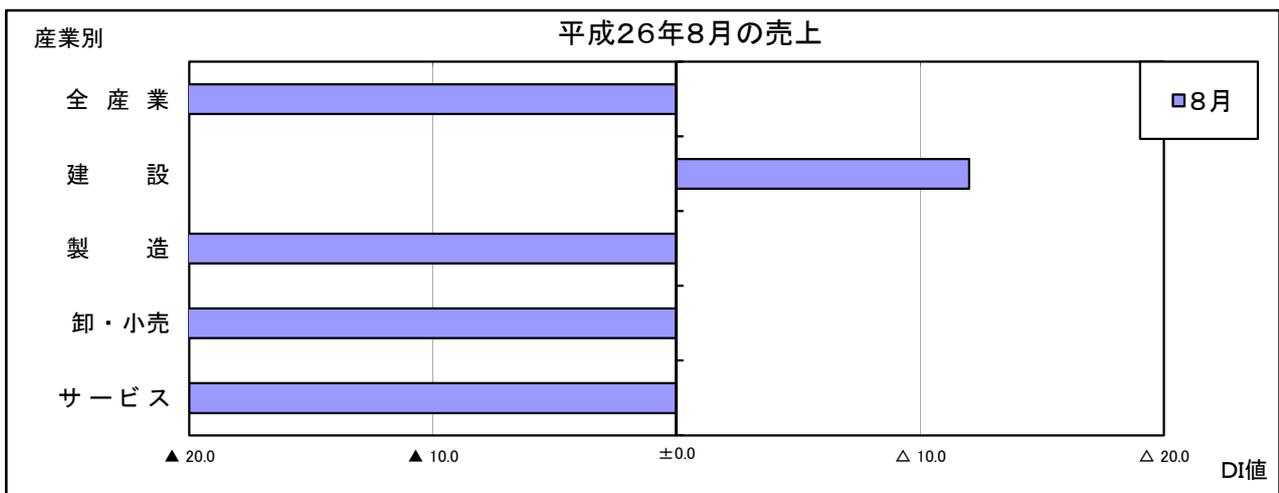
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、建設業△12.0(同△8.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲55.5(同▲61.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.5(同±0.0)、サービス業▲20.0(同±0.0)であり、それぞれ▲23.5ポイント、▲20.0ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.5(前月水準▲11.1)となり、マイナス幅が7.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△33.3(同△20.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.7(同▲57.6)、製造業▲5.8(同▲18.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△16.0(同△25.0)である。

平成26年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△5.0	▲9.5	▲23.5	▲10.5	▲17.2	▲22.6	▲3.5(▲11.1)
建設	△13.6	±0.0	▲33.3	△8.0	△8.3	△12.0	△16.0(△25.0)
製造	△6.6	△16.6	▲11.7	▲18.7	±0.0	▲23.5	▲5.8(▲18.7)
卸・小売	△3.5	▲35.7	▲42.8	▲32.1	▲61.5	▲55.5	▲40.7(▲57.6)
サービス	▲6.6	▲8.3	△12.5	△6.2	±0.0	▲20.0	△33.3(△20.0)



【平成26年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が6.3ポイント拡大した。

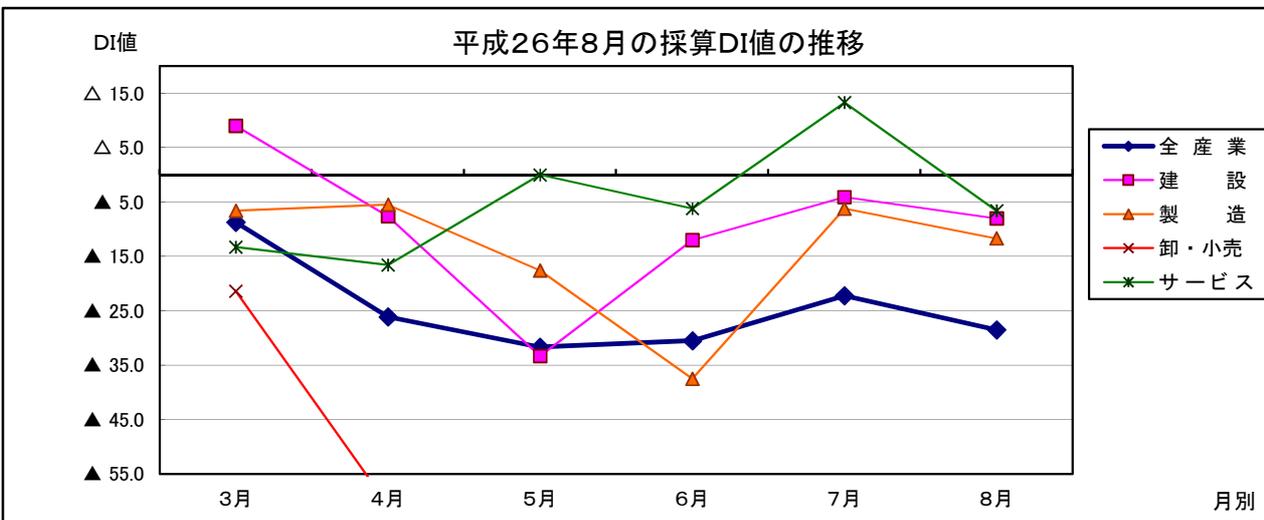
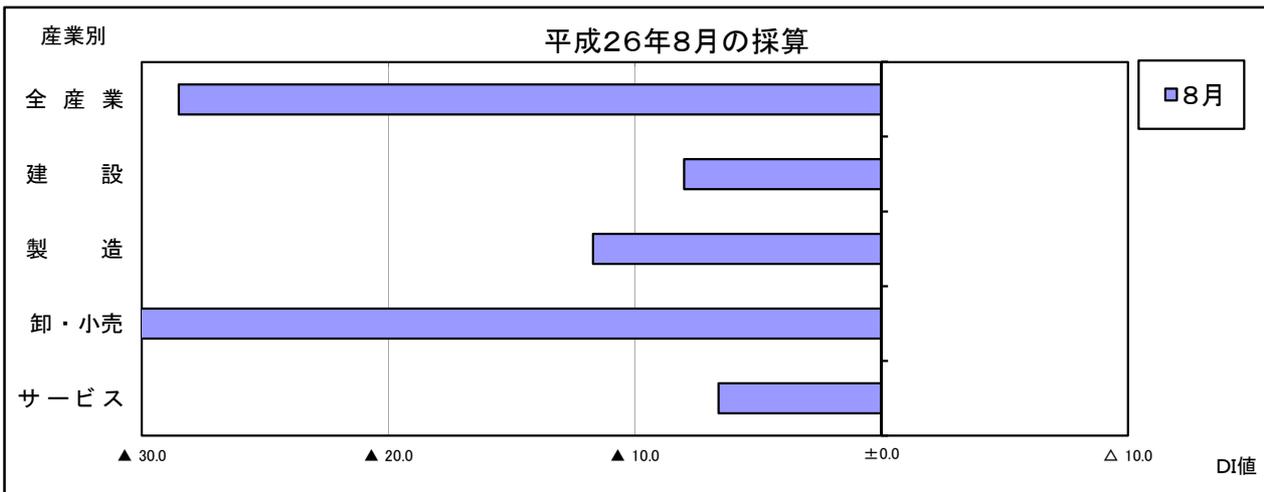
業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同△13.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲6.2)、建設業▲8.0(同▲4.1)、卸小売業▲70.3(同▲69.2)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.8(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が3.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△13.3(同△20.0)、建設業△4.0(同△4.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.4(同▲25.0)、卸小売業▲48.1(同▲46.1)である。

平成26年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲ 8.7	▲ 26.1	▲ 31.7	▲ 30.5	▲ 22.2	▲ 28.5	▲ 17.8 ( ▲ 14.8 )
建設	△ 9.0	▲ 7.6	▲ 33.3	▲ 12.0	▲ 4.1	▲ 8.0	△ 4.0 ( △ 4.1 )
製造	▲ 6.6	▲ 5.5	▲ 17.6	▲ 37.5	▲ 6.2	▲ 11.7	▲ 29.4 ( ▲ 25.0 )
卸・小売	▲ 21.4	▲ 60.7	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 69.2	▲ 70.3	▲ 48.1 ( ▲ 46.1 )
サービス	▲ 13.3	▲ 16.6	±0.0	▲ 6.2	△ 13.3	▲ 6.6	△ 13.3 ( △ 20.0 )



【平成26年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.2(前月水準▲41.9)となり、マイナス幅が3.3ポイント拡大した。

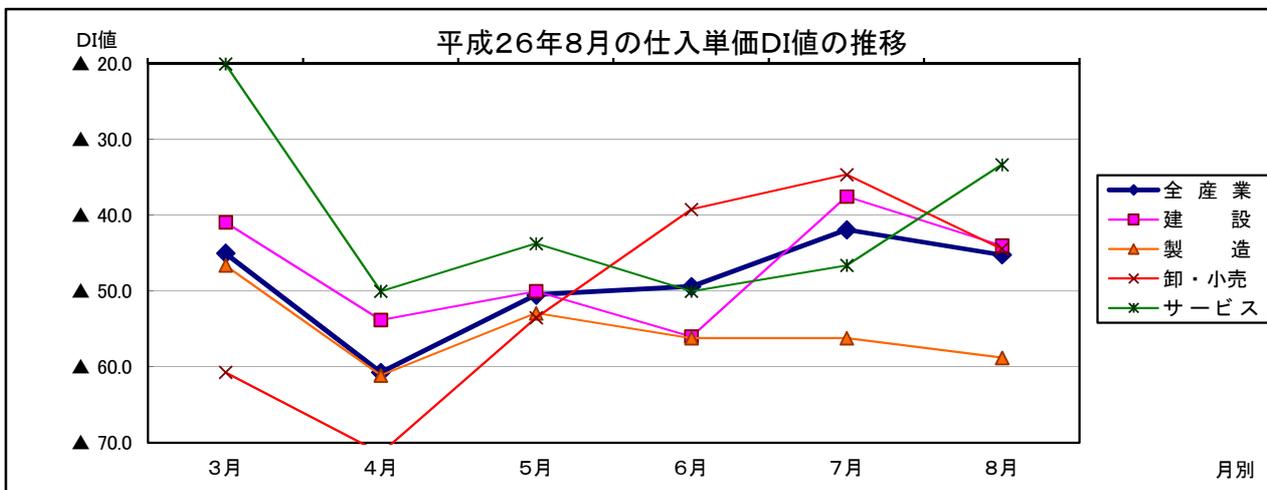
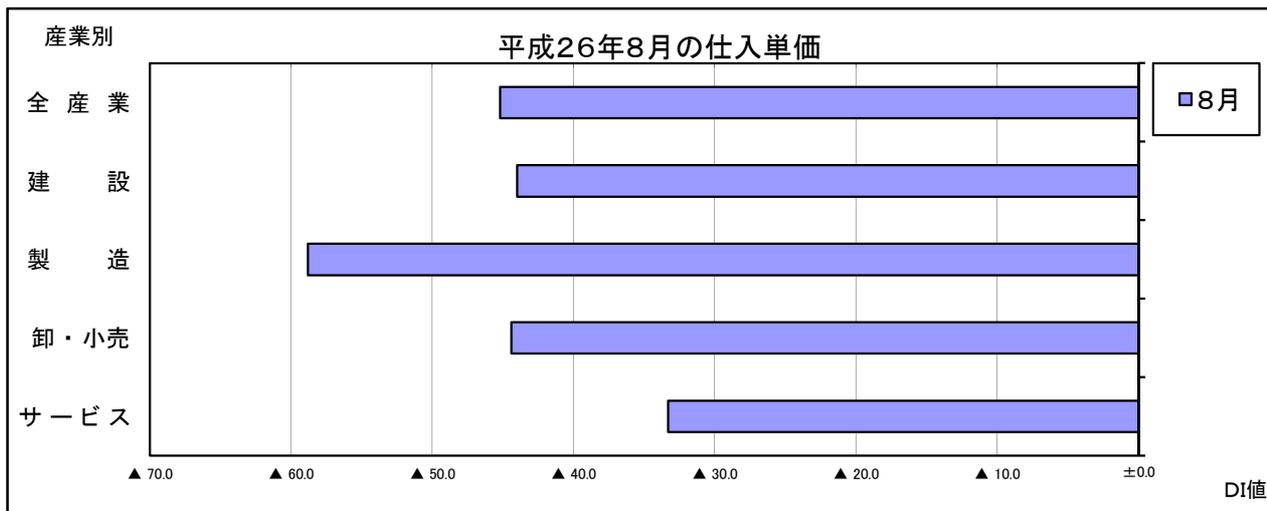
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲33.3(同▲46.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.4(同▲34.6)、建設業▲44.0(同▲37.5)、製造業▲58.8(同▲56.2)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32.1(前月水準▲32.0)となり、マイナス幅が0.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲32.0(同▲45.8)、製造業▲17.6(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲20.0)、卸小売業▲40.7(同▲34.6)である。

平成26年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲45.0	▲60.7	▲50.5	▲49.4	▲41.9	▲45.2	▲32.1(▲32.0)
建設	▲40.9	▲53.8	▲50.0	▲56.0	▲37.5	▲44.0	▲32.0(▲45.8)
製造	▲46.6	▲61.1	▲52.9	▲56.2	▲56.2	▲58.8	▲17.6(▲18.7)
卸・小売	▲60.7	▲71.4	▲53.5	▲39.2	▲34.6	▲44.4	▲40.7(▲34.6)
サービス	▲20.0	▲50.0	▲43.7	▲50.0	▲46.6	▲33.3	▲33.3(▲20.0)



【平成26年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.3(前月水準±0.0)となり、プラス幅が2.3ポイント拡大した。

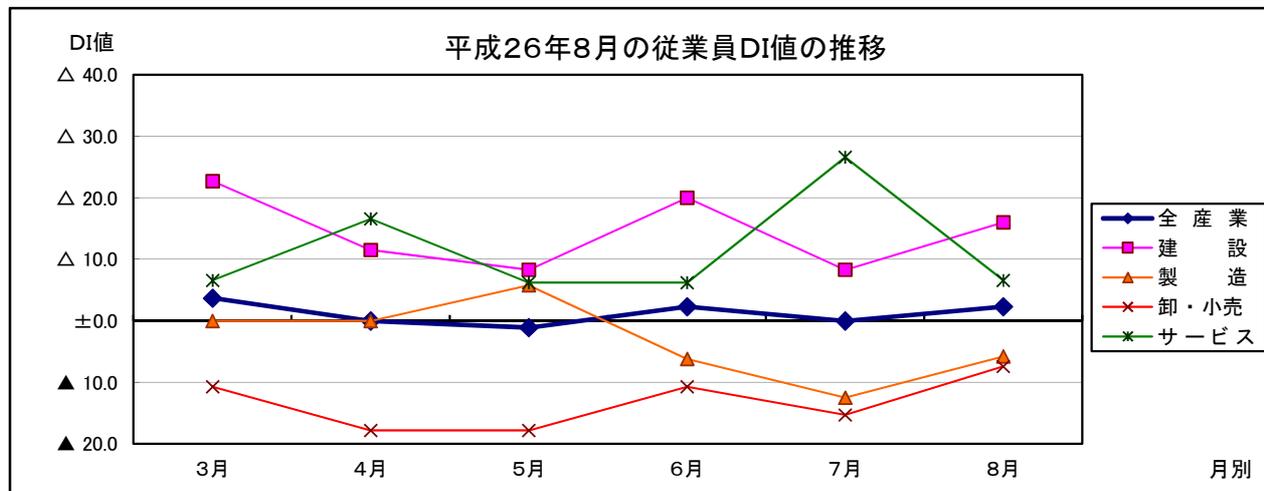
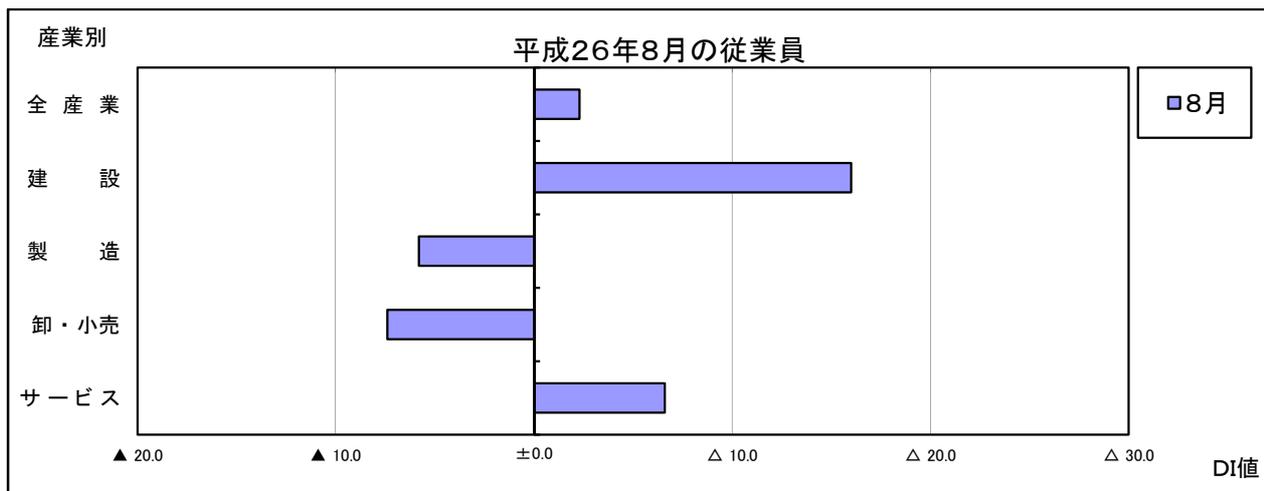
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△16.0(同△8.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲7.4(同▲15.3)、製造業▲5.8(同▲12.5)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.6(同△26.6)であり、20.0ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.7(前月水準△4.9)となり、プラス幅が5.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△20.0(同△12.5)、製造業△11.7(同△6.2)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲15.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△13.3(同△26.6)である。

平成26年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△3.7	±0.0	▲1.1	△2.3	±0.0	△2.3	△10.7(△4.9)
建設	△22.7	△11.5	△8.3	△20.0	△8.3	△16.0	△20.0(△12.5)
製造	±0.0	±0.0	△5.8	▲6.2	▲12.5	▲5.8	△11.7(△6.2)
卸・小売	▲10.7	▲17.8	▲17.8	▲10.7	▲15.3	▲7.4	±0.0(▲15.3)
サービス	△6.6	△16.6	△6.2	△6.2	△26.6	△6.6	△13.3(△26.6)



【平成26年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17. 8(前月水準▲12. 3)となり、マイナス幅が5. 5ポイント拡大した。

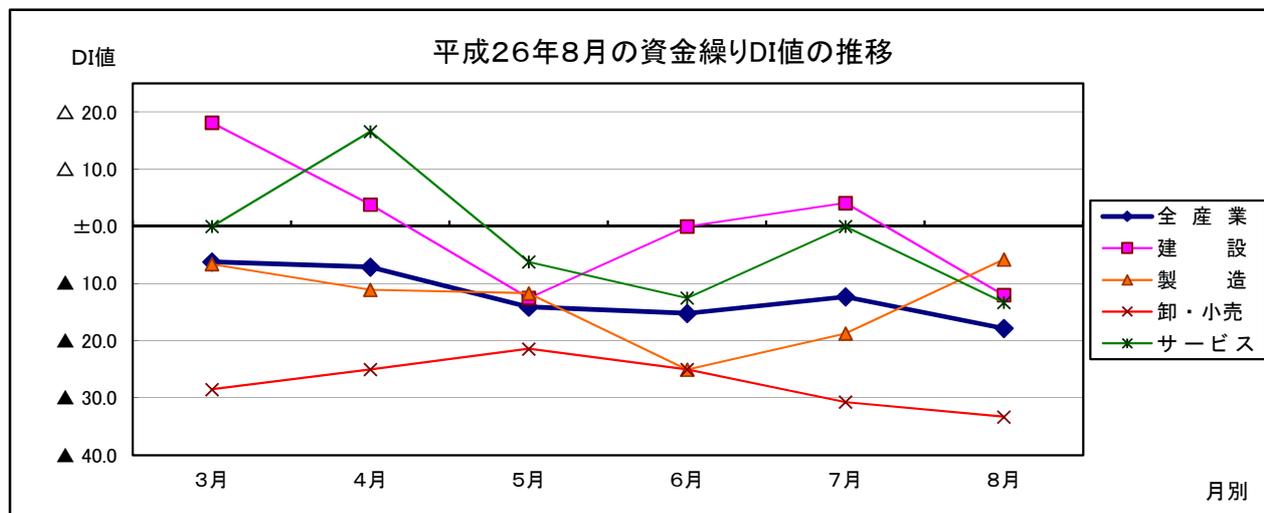
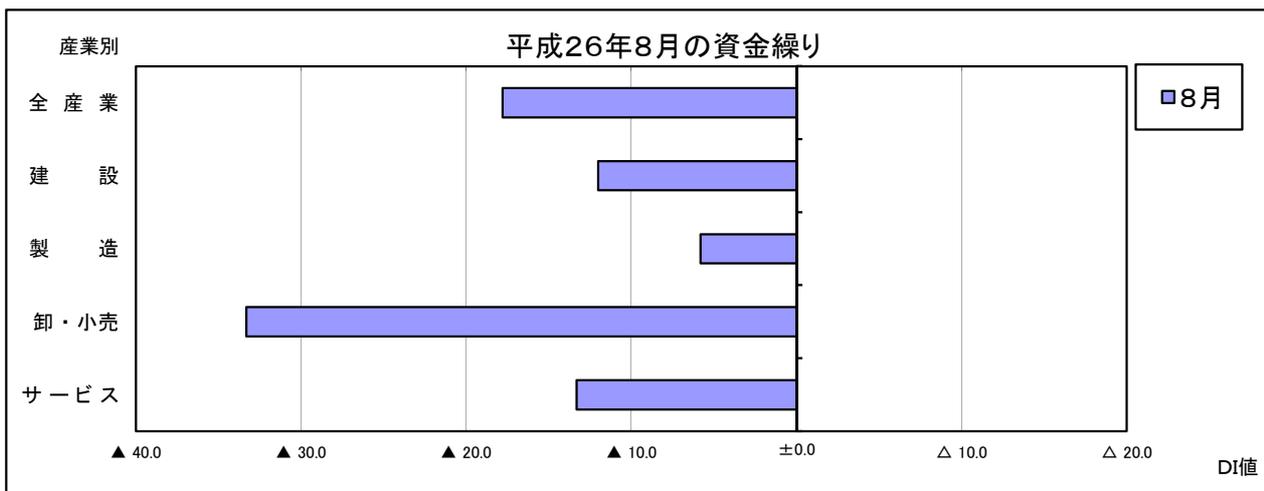
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲5. 8(同▲18. 7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、建設業▲12. 0(同△4. 1)、サービス業▲13. 3(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲33. 3(同▲30. 7)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14. 2(前月水準▲9. 8)となり、マイナス幅が4. 4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5. 8(同▲6. 2)である。変わらない見通しの業種は、サービス業±0. 0(同±0. 0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△4. 0(同△8. 3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲44. 4(▲34. 6)である。

平成26年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月( 8月~10月)
全産業	▲ 6.2	▲ 7.1	▲ 14.1	▲ 15.2	▲ 12.3	▲ 17.8	▲ 14.2 ( ▲ 9.8 )
建設	△ 18.1	△ 3.8	▲ 12.5	±0.0	△ 4.1	▲ 12.0	△ 4.0 ( △ 8.3 )
製造	▲ 6.6	▲ 11.1	▲ 11.7	▲ 25.0	▲ 18.7	▲ 5.8	▲ 5.8 ( ▲ 6.2 )
卸・小売	▲ 28.5	▲ 25.0	▲ 21.4	▲ 25.0	▲ 30.7	▲ 33.3	▲ 44.4 ( ▲ 34.6 )
サービス	±0.0	△ 16.6	▲ 6.2	▲ 12.5	±0.0	▲ 13.3	±0.0 ( ±0.0 )



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.6	▲ 3.5	▲ 28.5	▲ 17.8	▲ 45.2	▲ 32.1	△ 2.3	△ 10.7
建設	△ 12.0	△ 16.0	▲ 8.0	△ 4.0	▲ 44.0	▲ 32.0	△ 16.0	△ 20.0
製造	▲ 23.5	▲ 5.8	▲ 11.7	▲ 29.4	▲ 58.8	▲ 17.6	▲ 5.8	△ 11.7
卸・小売	▲ 55.5	▲ 40.7	▲ 70.3	▲ 48.1	▲ 44.4	▲ 40.7	▲ 7.4	±0.0
サービス	▲ 20.0	△ 33.3	▲ 6.6	△ 13.3	▲ 33.3	▲ 33.3	△ 6.6	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.3	▲ 19.0	▲ 17.8	▲ 14.2
建設	±0.0	±0.0	▲ 12.0	△ 4.0
製造	▲ 11.7	▲ 17.6	▲ 5.8	▲ 5.8
卸・小売	▲ 66.6	▲ 48.1	▲ 33.3	▲ 44.4
サービス	▲ 20.0	±0.0	▲ 13.3	±0.0

【平成26年8月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	上半期、駆け込み需要の反動で受注が減り、受注単価が一部で落ちているとの話を聞く。以前から言われているが、工期の平準化がやはり求められる。	駆け込み需要の反動 受注単価下落	石工れんがタイルブロック工事業
	材料他、諸経費も値上がり続きで、利益は薄い。見積り価格より大幅な値下げを要求されている。	原材料費高騰 経費増加 値下げ要求	電気工事業
	今月は工期の制約が多い現場が多く、作業員の配置にロスが出てしまい、経費がかさんでしまった。相変わらず利益がきちんと出る現場はほとんど無い。	経費増加 不採算	塗装工事業
	暑さが続いたせいか、畳工事量が減少。畳縁(へり)バックの販売は5月から好調。	受注減少	内装工事業
	4月以降、住宅(新築)は減少気味。リフォームは好調。	受注減少(新築) 受注増加(リフォーム)	その他の職別工事業
	石油製品である材料の値上がりが続いている。不景気による廃業、転職による人手不足、7・8月の高気温、天候不順による工事の遅れがあったが、9月決算に向け工事が進み、人手不足に拍車をかけている。工賃、手間代は値上がりしているが、ゼネコンからの受注単価は下がっており、厳しい状況となっている。	原材料費高騰 人手不足 工事遅延 経費増加 受注単価下落	その他の職別工事業
	本体業者間の競争が激しく、新築物件の確保が難しくなっている。	競争激化	管工事業
製造業	製品受注は月変動なく推移しているが、工事受注は月ごとで波がある。原料も上昇しており、転嫁出来ないと厳しい。	原材料費高騰	特殊産業用機械
	お盆前後に部品加工や購入品の発注が集中し、部品の納期遅れが通常より多く見られた。	受注の集中 納期遅れ	その他の機械・同部品製造業
	荷の動きが良くない。		紙製容器製造業
	今期の7・8月の売上高は上昇であったが、先行安定とは言えない。再度の消費税増税になると、仕事は益々淘汰され厳しい状況となる。	売上上昇 先行き不安	印刷業
	受注量の回復が見られない中、燃料費、材料費の値上がりが続く、先行きは厳しい状況である。	燃料費増加 原材料費高騰 先行き不安	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	消費税増税影響による売上ダウン傾向は改善し、婦人衣料品は前年水準まで回復。時計・宝飾品の高額品及び化粧品といった増税特需の恩恵を受け反動減のあった商材もトレンド上昇基調で前年実績を確保。	増税後の反動減回復	百貨店
	ここに来て売上減少が目につき出した。業界的に弱気モード。生き残りに必死。最近では稀な位、新規開拓の営業が廻って来る。	売上減少 業況悪化 業界低迷	婦人・子供服小売業
	パートさんの退職が増えてきている。各社とも人手不足から時給を見直し、アップしているために、当社から他社へ移るパートさんが出てきている。	パート職員の退職増加 人手不足 時給見直し	その他の各種商品小売業
	例年の8月に比べて更に状況は厳しいです。お客様の購買意欲が全く感じられない。景気の低迷は続いていると思います。	業況悪化 消費者購買意欲低下	菓子・パン小売業

【平成26年8月の業種別業界内トピックス】

	<p>今月は、野菜果実ともに相場はまちまちの取引です。関東以外の天候不順により品薄感、入荷の増加、減少と安値、高値の安定取引が続かない状況にあります。今後の秋商材に向けて産地情報をしっかり取り次ぎ、需要供給を図りたいと思います。</p>	<p>天候不順 不安定な取引状況</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>8月が悪いのは折込み済みとはいえ、持ち直しが見えない。増税後の引き締めがまだまだ続いている。</p>	<p>先行き不安 増税後の引き締め</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
サービス	<p>人手不足は深刻です。募集しても応募はゼロで、業務に支障が出ます。6月決算は昨年に続き、最高益を確保出来ました。全ての業界に於いて人手不足は深刻のようです。</p>	<p>人手不足</p>	<p>その他の飲食料品小売業</p>
	<p>法人需要では、前月同様、秋の職場旅行、招待旅行の案件が活発化している。2015年案件も発生し始めている。国土交通省定めによる新貸切バス運賃制度による貸切バス代金の上昇が徐々に市場に浸透し始めてきた模様。個人需要では、海外は、この夏はハワイ、グアムの家族旅行が人気。秋以降は、フランス、イタリア、ニュージーランド、ペルーのウユニ湖が人気。国内では、相変わらず大阪のテーマパークが人気。先行入場の特典がある商品やアトラクションの待ち時間短縮により。紅葉時期の京都、雲海の竹田城、JR九州観光列車の旅の申し込み、問い合わせが増えている。</p>	<p>法人需要の活性化 新貸切バス運賃制度 テーマパーク人気 シーズン商品</p>	<p>旅行業</p>
	<p>高額物件の引き合いが増えてきました。購入意欲も強いです。法人の需要も増加しています。</p>	<p>高額物件 購買意欲増加 法人需要増加</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>居住用賃貸物件も比較的すぐに埋まるので、景気は悪くないと思う。</p>	<p>居住用賃貸物件需要増加</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>昨今、人口減少と空き家増加の問題が取沙汰されています。今後の賃貸マーケットにも長期的に関連すると考えていますので注視しています。</p>	<p>人口減少 空き家増加</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>設備投資はそこそこ。ただ、不景気波はすぐそこにあると予測する。オンリーワンの商品開発が今後の生き残りのカギと考えている。特定のセクションでの人材不足は深刻であるが、製造職は人余り状態。</p>	<p>設備投資 人手不足 一部人員余剰</p>	<p>ソフトウェア業</p>

◎人手不足

パートさんの退職が増えてきている。各社とも人手不足から時給を見直し、アップしているために、当社から他社へ移るパートさんが出てきている。

その他の各種商品小売業

人手不足は深刻です。募集しても応募はゼロで、業務に支障が出ます。

その他の飲食料品小売業

◎原材料費高騰

材料、諸経費も値上がり続きで、利益は薄い。見積り価格より大幅な値下げを要求されている。

電気工事業

製品受注は月変動なく推移しているが、工事受注は月ごとで波がある。原料も値上がりしており、受注価格に転嫁出来ないと厳しい。

特殊産業用機械

◎先行き不安

受注量の回復が見られない中、燃料費、材料費の値上がりが続く、先行きは厳しい状況である。

一般産業用機械・装置製造業

8月が悪いのは予想していたとはいえ、持ち直しが見えない。消費税増税後の引き締めが未だ続いている。

その他の各種商品小売業

## 平成26年8月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.3に対し、「CCI-LOBO」が▲20.5で柏の方がマイナス幅が6.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.6に対し、「CCI-LOBO」が▲14.8で柏の方がマイナス幅が7.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業、サービス業で、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.5に対し、「CCI-LOBO」が▲24.1で柏の方がマイナス幅が4.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.2に対し、「CCI-LOBO」が▲50.8で、柏の方がマイナス幅が5.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△2.3に対し、「CCI-LOBO」が△11.4で柏の方がプラス幅が9.1ポイント小さい。業種別では、全ての業種が「柏の景気」の方が悪く、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.8に対し、「CCI-LOBO」が▲12.3で柏の方がマイナス幅が5.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業、サービス業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。

# 平成26年8月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 27.3	 ±0.0	 ▲ 11.7	 ▲ 66.6	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 20.5	 ▲ 4.8	 ▲ 10.9	 ▲ 43.0	 ▲ 16.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 22.6	 △ 12.0	 ▲ 23.5	 ▲ 55.5	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.8	 △ 0.4	 ▲ 2.8	 ▲ 39.1	 ▲ 11.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 28.5	 ▲ 8.0	 ▲ 11.7	 ▲ 70.3	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 24.1	 ▲ 17.0	 ▲ 15.2	 ▲ 42.3	 ▲ 21.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 45.2	 ▲ 44.0	 ▲ 58.8	 ▲ 44.4	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 50.8	 ▲ 64.1	 ▲ 54.9	 ▲ 44.0	 ▲ 47.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 2.3	 △ 16.0	 ▲ 5.8	 ▲ 7.4	 △ 6.6
CCI-LOBO	 △ 11.4	 △ 25.4	 △ 7.5	 △ 8.7	 △ 14.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 17.8	 ▲ 12.0	 ▲ 5.8	 ▲ 33.3	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 12.3	 ▲ 11.3	 ▲ 7.5	 ▲ 21.7	 ▲ 12.8

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(8月速報)

調査期間：平成26年8月15日～21日

調査対象：全国の422商工会議所が3150企業  
組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、横ばい圏内の動きが続く。先行きは回復見込むも、弱さが残る

8月の全産業合計の業況DIは、▲20.5と、前月から▲0.8ポイントのほぼ横ばいで推移。公共工事、自動車関連の支えが続くほか、外国人観光客の増加などを背景に観光関連が堅調だったものの、一部で台風や局地的な大雨に伴う売上減少、客足の伸び悩みなどの影響がみられた。また、仕入や電力料金などのコスト増による収益圧迫や、人手不足に伴う生産・営業活動への影響が広がるほか、人材確保のための賃上げにより負担が増す中、中小企業における景況感の回復は力強さを欠き、まだ模様の状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲17.4（今月比+3.1ポイント）と、改善を見込む。消費税率引き上げに伴う影響が和らぎつつある中で、賃上げを背景とする個人消費の活発化や、製造業の生産回復などが期待され、景気は徐々に持ち直すとの見方が続く。他方で、仕入や電力料金、人件費などのコスト増や人手不足に伴う影響の拡大などによ

り、先行きに確信が持てない中小企業も多く、回復に向けた動きに弱さも伺える。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「仕入価格や人件費が上昇する中、公共工事の施工単価が足元の価格に追いついておらず、収益を圧迫」（一般工事業、「待遇の良い大手へ技術職が引き抜かれるなど、人材の争奪が激化している」（一般工事業）

「公立学校の空調関係の受注が増加。年内は工事が続く見込みのため、人員確保が心配」（管工事業）

【製造業】「原材料価格や電力料金の上昇により採算が悪化。消費者向けの商品は消費税率引き上げ分の転嫁も困難な状況」（水産食料品製造・販売業）、「自動車関連の受注増に伴い、従業員の残業も増えている。増員したいが、人が集まらない」（製造業）、「スマートフォン向けなどの半導体製造用制御装置の受注が伸び、業況は好転している」（計量器製造業）

【卸売業】「徐々に売上が回復しつつあるものの、競合他

社との価格競争が激しく、採算面での回復が遅れている」（農産物卸売業）、「台風や大雨の影響により、アイス・飲料などの夏物商品の動きが鈍く、苦戦が続いた」（飲料・食料品卸売業）、「ガソリン価格の高止まりに加え、高速道路の割引改定の影響が大きいため、収益を確保できない」（洗剤・補修剤卸売業）

【小売業】「客単価は上昇しているが、来店客数が伸び悩んでおり、駆け込み需要の反動からは回復していない」（百貨店）、「電力料金などのコスト増が続く、従前から行ってきた経費削減では補いきれない」（総合スーパー）、「毎週末に天候が崩れたため、地元の良いお客が少なかったほか、観光客の入込も低調だった」（商店街）

【サービス業】「トラックは余っているが、ドライバー不足により売上が伸び悩んだ」（運送業）、「近隣にコンビニが相次いで出店した影響により、時給を上げてでも人手を確保できない」（飲食店）、「台風により一部でキャンセルが発生したものの、総じて観光客の利用が多く、稼働率は堅調だった」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲4.4	11.0	0.6	▲5.7	▲6.3	▲17.3
4月	▲14.1	5.9	±0.0	▲20.9	▲38.2	▲14.7
5月	▲21.8	±0.0	▲12.4	▲22.9	▲50.0	▲19.1
6月	▲20.3	±0.0	▲11.7	▲25.0	▲44.4	▲17.1
7月	▲19.7	▲2.1	▲14.1	▲22.2	▲41.0	▲16.5
8月	▲20.5	4.8	▲10.9	▲27.3	▲43.0	▲16.7
見通し	▲17.4	▲8.9	▲13.6	▲16.6	▲30.9	▲14.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI